

単元名:留学生と交流しよう

科目名	中国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー
学年/年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-
話題分野	人とのつきあい	言語レベル	1	必要時間数	8時間

I 単元目標

中国の名刺の作り方について調べ、自分の中国語の名刺を作り、地元の中国人留学生との交流会で、名刺を使って住所やメールアドレスの交換を行ない、交流会終了後にお礼のメールを書くことができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる						
できる						
つながる						

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
<ul style="list-style-type: none"> ◆住所やメールアドレスをたずねることができる。 ◆お礼状またはお礼のメールを出すことができる。 ◆数字を正しく言い、聞き取ることができる。 ◆自己紹介をすることができる。 ◆中国の名刺に何が書いてあるか読むことができる。 ◆中国語の文字で自分の名前を書いて、名刺を作ることができる。 ◆交流会で使う表現を言うことができる。 ◆中国語の発音に関心を持ち、日本語の発音との比較ができる。 ◆留学生との交流で積極的に話しかけ、交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆中国語のあいさつ表現を知り、日中のあいさつ文化について、その背景を考慮することができる。 ◆日中のメール事情について比較し、その背景(通信事情など)について考えることができる。 <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆名刺に載せる内容や項目の違いが国や社会構造の違いに根ざしており、社会・文化が人間の言葉、行動に影響していることに気づく(知識理解) ◆中国語でお礼のメールを書くことができる。(情報活用) <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>

コミュニケーション能力指標	<p>【人とのつきあい】</p> <p>1-a. 人とのつきあいでよく使う基本的なあいさつ表現(初対面、感謝、励まし、謝罪、断りなど)を、言ったり、聞いて理解できる。</p> <p>1-b. 電話・ファックスの番号やメールアドレスを、口頭で伝えあうことができる。</p> <p>1-c. 自分や交流相手の住所や宛名を書いたり、書かれた住所や宛名を見て理解したりできる。</p> <p>1-f. 招いたり招かれたりするときに交わす基本的な表現を、言ったり、聞いて理解したりできる。</p>
	<p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。</p> <p>数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している</p>

II 評価

学習を助けるための評価 (形成的評価)	目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)
<ul style="list-style-type: none"> ◆交流会参加者の名刺を作る。(文字の正確さ、対応する日中の漢字がわかったか) ◆携帯電話や固定電話の番号(架空でよい)を言ったり聞き取る、(発音の正確さ、聞き取りの正確さ) ◆あいさつ、自己紹介、歓迎や感謝の一言を添えるロールプレイをする。(積極性、発音の正確さ、話す態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆交流会用の名刺を作る。(情報量、表記の正確さ、レイアウトの工夫) ◆交流会であいさつをする。(積極性、適切な表現を用いたか、答えるタイミング、笑顔) ◆相手の住所やメールアドレスを尋ねてメモする。(情報量、正確さ)

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
<p>◆ 交流会の参加者名リストを見ながら、中国語の文字と日本語の文字を対照させて全員の名札を作る。【1-c】</p> <p>◆ 留学生の中国語の名前と自分たちの名前の中国語読みを練習する。【1-c】</p> <p>◆ ペアで自分の携帯電話や家の電話番号(架空のものでも可)を尋ね、答える。【1-b】</p> <p>◆ あいさつ、自己紹介、「交流会に来てくれてありがとう」など歓迎や感謝を表す一言添えて、交流会で使う表現のロールプレイをする。【1-a,f】</p> <p>★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p><場面状況> U高校の生徒が地元に住んでいる中国人留学生と交流会をもつことになった。</p> <p><活動の流れ> 交流会前に、クラスで中国の名刺について調べ、日本の名刺との類似性や相違性について話し合い、なぜそのような異同があるのかを考える。中国の名刺を参考にしながら各自自分の名刺を日本語と中国語で書いて作る。ペアになって自分の名前や住所を言ったり、相手の名前、住所、メールアドレスを聞いたりする練習をする。名刺を交換しながら、自己紹介し合うロールプレイもする。 交流会では名札を各自準備しておき、全員がつけて交流する。交流会は一度きりだが、留学生が中国に帰国した後も交流が続けられるように、生徒たちはあらかじめ作っておいた名刺を交流会で渡す。相手の住所やメールアドレスを尋ねてメモしておく。 交流会が終わった後、反省会を開き、スムーズに、積極的に交流できたか、事前調べや準備が適切であったかを振り返る。留学生からもらった名刺や連絡先情報カードがあれば、それらを持ち寄って、中国の住所の書き方や名前の特徴などについても話し合う。留学生が教えてくれた中国の住所がどういうところか、地図やインターネットで調べたうえで、お礼状またはお礼のメールを出す。</p> <p>ヒント☞ ◆ 中国人の名前、住んでいるところなどのプロフィールをもった中国人役の生徒と交流会をし、相手のことを尋ねる。 ◆ 文通またはメールでのやりとりを続ける。</p>	
<p><使用教材・教具> インターネット、名刺</p>		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<p><表現> 我家的电话(手机)号码是81353225211。/ 你的电话号码是多少?/我的住址是～。/ 你住在哪儿?/欢迎你们来参加交流会! / 谢谢你来参加交流会。/我叫～。/你叫什么名字?</p> <p><表現のポイント> “是”、“多少?”、“我叫～”</p>	<p>(数字) 电话、号码、手机、短信、伊妹儿、电子邮件、名片、住址、地址、交流会、欢迎、谢谢、参加、叫</p>	<p><事象> ◆ 人の呼び方 ◆ 手紙の宛名の書き方 ◆ 携帯電話</p> <p><事象のポイント> ◆ 人の呼び方でも、文化によってはファーストネームで呼び合ったりして、社会の仕組みとも関係あり、それが人のつきあい方にも影響していて、異文化交渉が盛んになるとそれが軋轢となったりすることに気付く。 ◆ 中国人の名前をたくさん書くことで、中国語の発音と日本語の音読みが対応していることに気付く。 ◆ 中国でも、iphoneやスマートフォンが流行っていることを知り、その使われ方について、日本と比較してみる。</p>
教室外(人・モノ・情報)との連繋	他教科の内容との連繋	
地域の中国人留学生	情報	